お婆さんの当たりクジ

松田 良弘［大阪府］

子供の頃近所の駄菓子屋に、ちょっと変わった〝当たりクジ〟がありました。それはお菓子を買わなくても挑戦できるもので、クジに当たると、店主のお婆さんが漫画の本を一冊貸してくれるのでした。当たりを決めるのはお婆さんで、その当たりの判定基準というのが、〝今日、誰が一番笑っているか？〟というものでした。

私達は毎日笑ってお店に入りました。お婆さんの目は抜かりがないので、私達はお店の中だけではなく、お店に入る前から笑顔でいました。友達と喧嘩をした日、親や先生に怒られた日、サッカーの試合に負けた日、それが引きつっていても、私達はとにかく笑っていました。そうしていると、不思議と気持ちが和らいできて、いつの間にか自然な笑顔になっていくのでした。そして見事にクジに当たると、漫画の本まで読めて、ずっと笑顔でいられるのでした。クジに外れても悲しい顔は出来ません。明日の審査は、今から始まっているからです。

「笑顔でいるだけで、人は幸せになれる！どんな時でも笑顔でいよう！」

いつもお婆さんは、私達に誰よりも素敵な笑顔で声を掛けてくれました。後になって知った事でしたが、お婆さんが貸してくれる漫画は、お婆さんの亡くなったお孫さんが集めていたものだったそうです。笑顔が絶えなかったお孫さんの姿を、お婆さんは私達に重ねていたのでしょうか。

あの頃お店に通っていた仲間達は、みんなそれぞれに色々な人生を歩んできましたが、どんな困難な場面でも、笑顔で乗り越えてきました。それは、あのお店の、あのお婆さんの〝愛顔〟の当たりクジのおかげだと思います。一日を笑顔で過ごしていれば、小さくても幸せな毎日を送れる事を、お婆さんは教えてくれました。

いつも愛顔が溢れていたお婆さんの駄菓子屋は、今でも私達の心の中で営業中です。